

ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー「救命賞」を受賞しました

看護部 医療情報担当 副看護師長 **わたなべ かつとし**
渡邊 克俊

島根県には出雲市と浜田市にライフセービングクラブがあり、夏期の海の安全を守っています。私は、出雲市多伎町の「キララライフセービングクラブ」に2002年のクラブ創設時から所属しています。今まで一人も水死者がいないことがクラブの誇りです。

しかし、昨年の夏に沖合55mの地点で20歳代の男性が沈んでいるのが発見され、浜に引き上げられましたが心肺停止状態でした。医療器材がないところでの処置はとても不安でしたが、心肺蘇生を躊躇することなく実施しました。幸いに、男性は呼吸と心拍が戻り救急隊に引き継ぐことができました。そして3週間後には後遺症もなく社会復帰を果たされたそうです。

このことで日本ライフセービング協会から「救命」アワード2016の表彰を頂きました。また、出雲消防署と出雲警察署からも感謝状を頂きました。これらの表彰を頂いたことは非常に光栄ですが、最も嬉しかったことはキララビーチで水死者「0」の更新ができたことです。海のレジャーが楽しい思い出になるよう、これからも水難事故の防止に努めたいと思います。



NEWS



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2月15日～3月14日

対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2/15(水)	9:30～11:30	平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポーターセンター	一般	がん患者・家族サポーター
2/18(土)	14:00～16:00	市民公開講座 知っておきたい眼の病気 ～白内障と糖尿病網膜症～	看護学科棟1階 N11講義室	一般	眼科学講座
2/19(日)	14:00～16:00	第12回脳卒中市民公開講座 脳卒中の予防と克服!	看護学科棟1階 N11講義室	一般	内科学第三
2/21(火)	9:00～11:30	平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会	★松江市立病院2階講堂	一般	がん患者・家族サポーター
2/24(金)	18:00～20:00	第110回病態生化学セミナー 皮膚科の自己炎症性疾患: DITRAとCAMP5	図書館3階 視聴覚室	医療 本学	病態生化学講座
2/25(土)	15:00～18:00	第27回山陰デジタル画像研究会	★松江テルサ1階 テルサホール	医療 本学	放射線医学講座
2/26(日)	14:00～16:00	科学移動教室 紙芝居から食物アレルギーを考える	★出雲科学館1階(会議室)	一般	皮膚科学講座
3/6(月)	15:00～16:00	第6回誰でも参加できる糖尿病教室 (1)「いつまでも自分の脚で歩こう!～足の運動～」 (2)「自分で歩くための“足”の点検とケア」	病棟2階 食堂ラパン	一般	糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

CONTENTS

- ・ リハビリテーション医学講座の設置について
- ・ アレルギーセンターを開設します
- ・ ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー「救命賞」を受賞しました
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報





リハビリテーション医学講座の設置について

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

「島根県地域医療構想」において急性期後の回復期、在宅医療におけるリハビリテーション（以下リハ）の重要性が強調されていることはご存知の通りです。回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟での在宅への移行に向けたリハ医療の提供、介護保険施設、在宅での十分なケアを行うための人材育成が必要で、特に指導的な役割を果たすリハ科医師の養成が急務と考えられます。

2015年の島根県勤務医師実態調査によると、リハ科医の必要数は常勤換算で34.0、現員数は19.9人、充足率は58.5%で、救急に次いで低い状況です。2010年の厚生労働省による病院等における必要医師数実態全国調査では、現員医師数＋必要医師数／現員医師数がリハ科は1.29倍で、診療科別で最も高く、リハ科医師の不足が大きな課題となっています。その後、全国紙でも「リハ医不足 深刻」、「増える需要、進まぬ養成」、「改善を急ぐ大学も」などと報道されています。リハ科は基本領域専門医に位置づけられていますが、リハ医の確保については、当該科の努力にもかかわらず十分ではありません。病院収入を財源としてリハビリテーション医学講座を設置し、卒前教育に深く関わるとともに研究体制を整え、入局者とりハ科専門医の養成数を増加させることにより、地域包括ケアを中心としたこれからの島根県の医療に貢献できると考えます。人員配置は、講座に教授1名、助教1名、診療科に准教授1名、助教1名、医員2名、療法士長1名、理学療法士17名、作業療法士8名、言語聴覚士3名、技能職員、看護師各1名とします。リハ科・部は、これまで医理工連携研究の実績も有し、最近では、医学部職員を対象としたヘルスケアプログラムの実施を計画しており、講座となればさらに研究も活性化することが予想されます。今年度松江キャンパスに設置された人間科学部と人材養成、研究で連携できる領域は十分あると考えられ、今回のリハビリテーション医学講座の設置は本学の第3期中期目標計画期間においてアピールポイントの一つとなることを期待されます。



島大病院では アレルギーセンターを開設します

皮膚科 診療科長 もりた えいしん
森田 栄伸

当院では、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、呼吸器・化学療法内科、消化器内科などで種々のアレルギー性疾患患者さんを診療しています。近年、アレルギー性疾患患者さんが増加し、難治化・複合化していることから、こうした患者さんを対象に各診療科が連携して診療ができるアレルギーセンターを本年4月に開設いたします。

アレルギー性疾患は、一旦発病すると長く続き、アトピー性皮膚炎に食物アレルギーが合併する、あるいはアトピー性皮膚炎が軽快しても気管支喘息や花粉症を発症する、いわゆるアレルギーマーチになってしまうなど治療が難しい場合が少なくありません。また、アナフィラキシーショックなど生命の危険がある場合もあります。好酸球性副鼻腔炎や好酸球性消化管疾患など原因が明らかにされていない指定難病の患者さんも増加しています。

アレルギーセンターではこうした治療の難しいアレルギー性疾患に対して、科学的な根拠に基づいた最新の治療を提供するとともに、各診療科間で定期的にカンファレンスを行い、個々の患者さんに合う最適な治療が選択できる様、総合的な診療、栄養管理、薬剤指導、検査を提供できる体制を整え、トップレベルの医療を提供します。

診療科	皮膚科	小児科	耳鼻咽喉科	呼吸器・ 化学療法内科	消化器内科
対象疾患	アナフィラキシー 食物アレルギー アトピー性皮膚炎 薬剤アレルギー	喘息 食物アレルギー アトピー性皮膚炎	花粉症 鼻アレルギー メニエール病 好酸球性副鼻腔炎	喘息 好酸球性肺炎 過敏性肺炎 薬剤性肺炎	好酸球性消化管疾患 (好酸球性食道炎・ 胃腸炎)
初診日	毎週火曜日	毎週火曜日	毎週火曜日	毎週火曜日	毎週火曜日、水曜日
問合せ先	0853-20-2382	0853-20-2383	0853-20-2390	0853-20-2381	

該当する患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご紹介いただきますようお願いいたします。





ご報告

口腔がん無料集団検診を実施して

歯科口腔外科 診療科長 せきね じょうじ
関根 浄治

本邦では全がんのうち、口腔がんの占める割合は1-2%ですが、罹患者数、死亡者数は多いと言えます。また、発見される多くは進行症例であり、口腔がんに対する認知度が低いことがその一因と考えられます。当科においては、口腔がんの啓発と早期発見を目的に、2010年より細胞診を用いた口腔がん集団検診を実施してきました。

—昨年、出雲市で初めての口腔がん無料集団検診を行い、655名の受検者がありました。昨年は新たに松江市でも開催し、12月10日(土)松江市立病院、翌11日(日)出雲市役所にて、連日口腔がん無料集団検診を行いました。受検者数は1,308名で、内144名に肉眼的に口腔病変を認め、細胞診を施行しました。その結果、42名が陽性(異型性含む)でした。2週間以内に結果通知を終え、陽性者に関しては専門医療機関への受診を促しました。

わずか2日で1,300名以上の受検者があり、口腔がん認知度の向上、その早期発見・早期治療につながり、行政支援への追い風にもなったと思われました。今後は、本検診活動を島根県全域に拡げていきたいと考えています。



当科の行ってきた口腔がん集団検診



お知らせ

オスラー病外来を開始しました!!

総合診療科 診療科長 いしばし ゆたか
石橋 豊
担当医 おおやけ のぶゆき
公受 伸之

総合診療科では、2017年2月より耳鼻咽喉科と協力し、全国的にも少ない「オスラー病外来」を開設しました。

どんな病気?

オスラー病は常染色体優性遺伝形式をとる遺伝性血管疾患で、正式には遺伝性出血性末梢血管拡張症(hereditary hemorrhagic telangiectasia: HHT)と言います。表に示す診断基準により診断され、有病率は約5,000人に1人で島根県では約130人の患者数が推定されます。しかし、我々の調査では県内の診断例は数人で、多くが未診断で経過し重篤な合併症(脳梗塞・出血・膿瘍、消化管出血、貧血等)で発症することが問題です。

Curaco 診断基準	確定：3つ以上、疑い：2つ、可能性低い：1つ以下該当
1 鼻出血	自然かつ反復性
2 末梢血管拡張症	口唇、口腔、手指、鼻
3 内臓病変	胃腸末梢血管拡張、肺・脳・肝・脊髄の動静脈血管奇形
4 家族歴	HHTと診断されている1親等の血縁者

どんな症状?

初発症状は約半数が鼻出血、次いで消化管出血、口腔内出血、末梢血管拡張、胸部XP異常、痙攣がそれぞれ数%に見られます。発症年齢は約4割が20歳未満ですが、受診行動にいたるのは1割程度で、多くは病変が完成する30歳以上で初診となり、診断はさらに遅れます。



オスラー病患者の皮膚粘膜所見。
口周囲、口唇、舌、手指に淡紅色の点状毛細血管拡張が散在する。

外来ではどんなことをするの?

詳細な問診と病変検査で早期診断を行い、専門的治療を要する病変は関連診療科に紹介するとともに、長期にわたる患者・家族支援を行い、闘病生活をサポートします。また、疑い症例のフォローも重視します。2014年に発足した全国研究会(HHT JAPAN)に所属する専門医との連携も進めています。

● (診察日) 第4金曜日午後(要予約) 医師 公受伸之

問合せ先 内科外来 TEL: 0853-20-2381





お知らせ



展示作品「絵の中に旅行しよう」

病院内「市民ギャラリー」のご案内

当院では、B病棟 1階渡り廊下に「市民ギャラリー」を設置して、概ね3ヶ月毎に展示作品を入れ替え、皆様にご覧いただいております。

1月～3月は、画家の池平徹兵氏が当院小児病棟の子どもたちと共同制作した高さ1.5m×幅8mの壮大な壁画「絵の中に旅行しよう」を展示しています。

作品介绍(池平徹兵氏より)

本作品は、昨年8月に小児病棟で5日間にわたって制作され、入院中の子どもたちや病院のスタッフ約40人が参加しました。

ここに世界中の人が旅行に来たいくらいの絵を描けば、夏休みを病院で過ごす子どもたちを旅行へ連れて行ったのと同じになるかもしれない僕は思いました。

絵の中へ旅行しながら、参加者は旅先で見たもの、動物、植物、乗り物など、自分が描きたいものを一つ一つ熱心に描き、僕が絵の間を繋ぎながら景色にしていきました。

自然界の景色の中に無駄なものはないように、この絵の中でも、参加者の描いた絵は全て必要とされ、全てが主役の世界が広がります。

誰が欠けてもこの絵は完成しませんでした。子どもたちは退院しましたがこの絵の中ではずっと一緒です。

この作品と展示を通して「僕たちはこれからの未来に必要とされている。期待されている。」という感覚を子どもたちに送りたいと思います。

当院市民ギャラリーにお立ち寄りいただき、ぜひ実際の作品をご覧ください。

今後も、市民の皆様から広く絵画や写真等の作品を募集いたします。

詳細につきましては、当院のホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/pickup/gallery.html>に記載しておりますので、ご覧ください。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2019



池平徹兵氏

島根大学教育学部卒の画家。
フランスのギャラリーbruno massaよりパリ、ニューヨーク、ワシントンDC、マイアミなどのアートフェアに出展。
2013 第16回岡本太郎現代美術賞展入選
2013 東京オペラシティアートギャラリーproject N
2015 H.P.FRANCE WINDOW GALLERY (東京駅丸ビル)
2015 東京大学駒場博物館特別展
「境界を引く超える」



ご報告

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」にともなう 「島根の在宅医療を考える実践セミナー」を開催しました

地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業では、リサーチマインドを持った総合診療医の養成が目的です。しかし、地域包括ケアには、医師ばかりでなく看護師、療法士などあらゆる職種の関与が必要です。「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」では、リサーチマインドを持った医療スタッフの養成にも取り組んでおり、本プログラムの特徴となっています。そこで、今回は、在宅医療に必要な知識とスキルを身につける全職種対象のセミナーを2016年12月18日(日)に開催しました。



冒頭、井川幹夫病院長は挨拶で、地域包括ケアにはリハビリテーションが重要であることを強調されました。セミナーは、3部から構成され、神経内科、認知症疾患医療センター、小児科ならびにリハビリテーション科の協力で実現しました。



第1部では「認知症の診断と治療」をテーマに、三瀧真悟医師による講義、若槻律子看護師および黒田陽子作業療法士による事例提示により、センター受診の実状や地域連携の重要性が示されました。

第2部では、「子どもの在宅はやりがいと楽しみがある」をテーマに、小児在宅医療について、竹谷健診療科長による島根県の現状報告、患者さんご自身ならびに他のご家族からのご経験、また、竹本和代看護師長から病院と地域の連携のための在宅支援ファイルに関する報告と道端ゆう子理学療法士による退院支援に向けたリハビリテーションの実践報告がありました。

第3部では、「ロコモティブシンドロームの診療に必要な知識と技術」をテーマに、酒井康生医師によるロコモティブシンドロームの診療および馬庭壯吉診療科長によるノルディックウォークを用いた運動療法に関する講義がありました。同シンドロームの評価と運動療法では、江草典政療法士長および療法士らにより、参加者全員を対象に家庭でもできる運動療法が紹介されました。

参加者には、文字通り知識の向上とスキルアップの両方に役立つセミナーとなりました。





ご報告

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 「地方と都会の大学連携ライフィノベーション」にともなう 「地域包括ケアシンポジウム」を開催しました

地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

本事業の目的は、リサーチマインドを持った総合診療医の養成です。今年度は、地域包括ケアシステムの構築に向け、総合診療医の役割とそれを養成する大学の役割をあらためて考える機会を持つこととし、2016年12月23日(金・祝日)に「地域包括ケアシンポジウム」を開催しました。

冒頭、井川幹夫病院長は、挨拶で地域包括ケアにリハビリテーション医の養成が重要で、当院もそれに取り組んでいること、熊倉俊一教授から当日の予定等が紹介されました。

基調講演には、地域包括ケアを推進する厚生労働省から出向している茨城県保健福祉部・松岡輝昌部長から「わが国の地域包括ケアのあるべき姿」と題して地域包括ケアや総合診療医の考え方、総合診療医養成を实践する三重大学家庭医療学講座・竹村洋典教授から「三重県の地域医療、地域包括ケアにおける三重大学の役割」と題して、三重大学を事例に地域との関係性や連携等についてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、さきに島根県健康福祉部・知念希和医療企画監から島根県の住民意識調査を中心に、島根県医師会・櫻井照久理事から「くらしを守る」という日本医師会のスタンス、神戸大学地域医療教育学部門・岡山雅信特命教授から総合診療医の定義とともに兵庫県と大学との連携、兵庫医科大学総合診療科・新村健主任教授から本院のある西宮市から離れた篠山市にある分院のささやま医療センターの活用、ならびに島根大学総合医療学講座・石橋豊教授から総合診療医養成の問題点を中心にそれぞれの立場からご報告いただきました。

その後、基調講演の松岡、竹村両氏をコメンテーターに加え、テーマ「地域包括ケアシステムにおける、総合診療医と大学の役割」に沿った活発なディスカッションが行われました。例えば、総合診療医が地域包括ケアで重要な役割を果たすことは間違いがないが、その定義が曖昧なことや地域や大学、養成プログラム等格差のあることの指摘とともに地域における大学の位置づけを明確にし、医師会や自治体との連携が重要であること等について議論が展開されました。

最後に山口修平医学部長から参加者のみなさんをはじめ、演者やシンポジストの方々に御礼とともに閉会の言葉が述べられました。ご参加のみなさまのご協力により、シンポジウムを成功裏に終えることが出来ました。



お知らせ



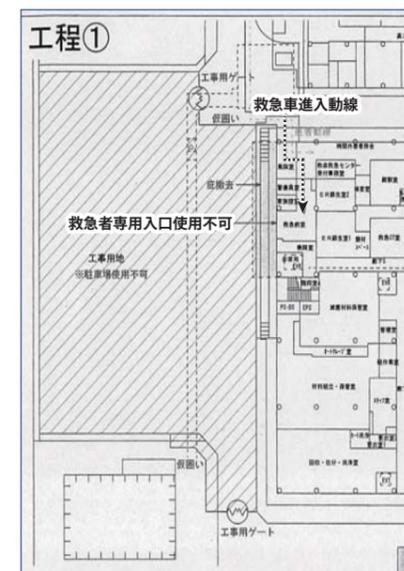
高度外傷センターの完成イメージ ハイブリッドER、重症外傷初療室(3床)を配備した最新の外傷診療ユニット

高度外傷センター棟の着工と救急車のルートについて

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

昨年4月に新たに設置されました高度外傷センターの診療棟である高度外傷センター棟の工事が昨年12月20日より始まりました。約7ヶ月間をかけて新たな診療棟が完成いたします。本診療棟は3階建てで建築され、1階部分が外傷初期診療を行う診療部門、2階が Acute Care Surgery 講座医局、3階部分が手術室2室となります。本診療棟の完成により高度外傷センターの診療能力は大きく向上します。特に診療部分に設置されますハイブリッドER(初療室)は、救急室、CT検査室、手術室、血管造影室の4つの能力を持つ診療ユニットで、患者さんを移動することなく治療が完結する最新の医療ユニットで国立大学では初の導入となります。またこのことには、重症外傷をはじめ致命的救急疾患患者さんの診療を行うための初療室3床が設置されます。初療室も手術室に準じた空調を備えた初期診療ユニットで、ハイブリッドERとあわせると4名の重症患者さんを同時に受け入れることのできる体制となります。

本診療棟の建設工事に伴いまして、現在の救命救急センターへの救急車の搬入導線に変更が生じております。C病棟西側にある従来の救急搬入口は工事のため閉鎖されており、北側の救命救急センター入り口より救急患者さんの受け入れを行うようになっております。工事中何かとご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。





島大病院ニュース 2017年2月

お知らせ

遺伝子検査の受託を開始しました！

小児科	教授	たけたに 健	たけし 健
腫瘍・血液内科	教授	すずみや 淳司	じゅんじ 淳司
臨床遺伝診療部	部長	おにがた 和道	かずみち 和道
検査部	部長	ながい 篤	あつし 篤

今年2月から、当院では、受託検査として「遺伝子検査」を行う運びとなりました。遺伝子検査の内容は、造血器腫瘍に関わる遺伝子および遺伝子性疾患の原因遺伝子です。

日常の医療の現場において、遺伝子検査が臨床検査の一部として行われ、悪性腫瘍や遺伝性疾患の診断、治療、予防などに貢献しており、今後ますます重要になってくることが予想されます。

これまで遺伝子検査は、一部の研究機関および検査会社によって、行われてきました。しかし、最近の遺伝子診断技術の進歩により、臨床的に重要な遺伝子が次々と明らかとなっています。したがって、出来るだけ多くの施設で、診療を目的とした臨床的に有効な遺伝子検査を行い、患者さんの適切な診療に活用するために、平成26年度から遺伝子検査が保険収載され、保険医療機関で行うことが可能となりました。これを踏まえて、当院でも遺伝子検査を受託して行うことに致しました。

具体的な検査項目と受託方法は、当院検査部ホームページをご覧ください。患者さんの適切な診療にお役に立てる遺伝子検査を提供させていただきます。

料金

- 造血器腫瘍遺伝子検査 1項目につき 21,000円
- 遺伝学検査 1項目につき 38,800円

問合せ先 検査部 TEL: 0853-20-2416



島大病院ニュース 2017年2月

お知らせ



奥出雲フェアを開催中

栄養治療室 室長 ひらい じゅんこ
平井 順子

昨年、10月に奥出雲町と島根大学は、地域活性化と人材育成を目的として包括的連携協定を締結しました。協定では、たたら製鉄などの資源を活用した観光、教育、文化の振興や、地域医療の充実をはじめ、産業振興、まちづくり、国際交流など8項目での連携が盛り込まれることになりました。

当院では、産業振興の面から、当院入院患者さんへ奥出雲町特産の食材を活用した食事提供を「奥出雲フェア」として企画しました。

この「奥出雲フェア」では、奥出雲町の特産品である、「仁多米」、「奥出雲和牛」、「奥出雲シイタケ」を使った献立を一部の食種(一般食・常菜食)を食べられている患者さんの夕食時に提供いたします。

島根県には美味しいものがたくさんあります。島根県のおいしさの代表ともいえる奥出雲の土地が育んだ食材をどうぞお楽しみください。

期 間 平成29年1月19日(木)～
平成29年3月9日(木)
毎週木曜日

提供時間 夕食
(2月9日は昼食の提供となります)

献 立 すき焼き風煮

提供食種 一部食種に限らせていただきます



平成29年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



「しまね大交流会」に参加して

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき 佐野 千晶

島根大学では毎年、学生が地域の企業・行政・NPO等から社会の在りようを学ぶために、しまね大交流会を開催しています。今年度は、220ブース、700人を超える島根県に根差した出展者と高校生・大学生とが松江に集結しました。地域医療支援学講座からは、附属病院ワークライフバランス支援室、島根大学男女共同参画推進室、しまね地域医療支援センターと連携して、「医療人が輝くためのワークライフバランス支援の取り組み」について出展しました。皆さんは、患者さんが笑顔になれるよう、また医療人がいきいきと仕事に邁進するためには、どのような取り組みが必要とお考えになられるでしょうか。島根県では医療者の就労支援に取り組んでいること、また全国的には珍しい医学部キャリア教育が行われていること、更には就労者のワークライフバランスに配慮された医療施設がたくさんあることを、参加者へお知らせしました。ワークライフバランス支援の取り組みについて今後も進化させていきたいと思っています。忌憚のないご意見をお待ちしています。

問合せ先 地域医療支援学講座 TEL: 0853-20-2558

お知らせコーナー

第3回医学部教育FD

日時 平成29年3月3日(金) 18:00~
会場 みらい棟 4F ギャラクシー

医学科5年生・6年生は地域の病院で臨床実習を行っています。地域での臨床実習の方法・内容・評価等について今一度振り返り、よりよいものにしていくためのFDを予定しました。スーパーバイザーとして、文部科学省「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ委員を務められ、医学生の診療参加型臨床実習を牽引してこられました自治医科大学 地域医療センター長の梶井英治先生をお招きします。島根の医師育成・医学教育関係者の奮ってのご参加をお待ちしています。



お知らせ

「CGM:持続血糖測定検査外来」をはじめます

もりた みわ 守田 美和
内分泌代謝内科 助教

糖尿病患者さんの持続血糖測定検査のための外来です。昨年12月に新しく発売された「FreeStyle リブレ Pro」を使用します。最長で14日間15分毎のグルコースの記録が可能で病院でデータを読み取る事により結果が分かります。上腕部の皮下に細くて短いセンサーを挿入しますが、痛みはほとんどなく、装着したまま入浴など日常生活が可能です。

CGM:持続血糖測定検査外来 隔週金曜日9時~10時

メリット

- 簡単:補正の為に血糖測定が不要であり、患者さんは機械操作の必要もありません。
- 血糖変動を可視化:15分毎のグルコース記録により結果をグラフで見る事が可能です。
- 治療満足度上昇:血糖値の変動を知る事により、治療満足度が上昇する効果が報告されています。
- きめ細かい治療の一助:より適切な治療管理や患者さん指導に役立ちます。

こんな方にお勧め

- 高齢の方や血糖測定が出来ない方の低血糖検索(夜間低血糖や無自覚性低血糖のスクリーニング)
- 食事・運動による血糖値の変化を知りたい方
- 治療薬変更前後での効果の確認 など

保険適用

(島根県内では当院と松江市立病院、松江赤十字病院のみで可能です)

- 1型糖尿病の方
- 2型糖尿病で低血糖になる可能性のある治療をしている方(判断にお困りの際はご相談ください)
- 検査費用:3割負担で約4,000円程度

【受診】
問診
センサー装着

2週間後

【受診】
結果読み取り
本人・紹介元へ結果報告

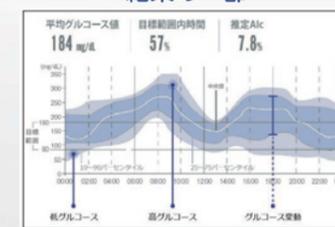
センサー



結果読み取り機



結果の一部



問合せ先 内科学第一 TEL: 0853-20-2183

予約先 地域医療連携センター TEL: 0853-20-2061





外来患者さんと一緒に 「毎日骨骨(こつこつ)いきいき体操」を行いました

看護部 部長 かんだ まりこ
神田 眞理子

平成 29 年 1 月 11 日 (水) に「ちょっと気になる健康講座～あら、さっきもいったでしょ～」の講座に引き続いて、約 30 分間、当院男性看護師による「毎日骨骨(こつこつ)いきいき体操」を外来患者さんと一緒に病院玄関ロビーで行いました。

この体操は、出雲市が推奨されている転倒予防の健康体操です。平成 28 年 11 月 6 日 (日) に出雲市塩冶地区の文化祭に地域医療に貢献することを目的に、当院看護部も参加させて頂いた際に男性看護師が行った体操です。肩回し、背筋のばし、足首まわし等の体をほぐし筋力の低下を予防するストレッチ体操です。今回は、外来の待ち時間を利用して患者さんやご家族の方にお声をかけて、椅子にすわり輪を作り男性看護師の掛け声にあわせて体操を行いました。

最初は数名の参加者でしたが、徐々に参加者が増えて輪も広がりなごやかな雰囲気となり、患者さんからは、「体があたたかくなってきた。」「体がほぐれ楽しかった」等の感想があり好評の中、終了しました。

